

●編集顧問／牧野永城、菅原克彦、阿部令彦、出月康夫、武藤輝一、田島知郎、萩原 優、北島政樹、炭山嘉伸

●編集委員／跡見 裕、畠山勝義、桑野博行、宮崎 勝、島津元秀

●編集同人／佐野圭司、近藤芳夫、阪口周吉、鈴木章夫、秋山 洋、塩谷信幸、諏訪邦夫、岡崎春雄、松元輝夫、折田薫三、細田泰之

低侵襲手術という言葉が叫ばれ始めてから久しいが、「低侵襲」の真の意味は何かについては議論のあるところである。手術侵襲の程度により種々の生体反応が惹起され、それは神経内分泌反応やサイトカインの変動で説明できるようになり、逆にこれらの変動の程度により手術侵襲を評価・定量化する試みがなされている。手術侵襲を規定する因子としては手術時間、出血量、手術部位、切除臓器の量、重要臓器の虚血時間などとともに体壁切開の大きさが挙げられ、これらが最小限に抑えられていれば術後の回復も早いと考えられる。

内視鏡外科は主として切開創を小さくして術後の疼痛を軽減し、さらに体腔内臓器の外気への曝露と乾燥を抑えて低侵襲を目指そうとするものである。しかしながら、内視鏡手術は間接視のため視野が不良、遠隔操作のため手技が制約される、操作空間が限定される、触覚が使えないなどの難点があり、手術時間が長くなり、ときに重大な合併症を引き起こす危険性があるなど、術者のストレスも大きい。これらの問題点はめざましい機器の進歩により改善されつつあるが、内視鏡手術が真に低侵襲であるためには、手術時間と出血量が許容でき、合併症が低く抑えられるなどの安全性の担保が必要である。そのためには手術手技の基本に習熟し、手術器械を適切に使いこなす知識と技術の裏付けが必要であることは論を俟たない。これは開腹手術であろうが、内視鏡手術であろうが共通の原則であり、開腹手術に熟達すれば内視鏡手術をマスターすることは困難ではないと考える。

肝・胆・膵領域の腹腔鏡下手術は良性疾患に対する胆嚢摘出術こそ標準術式となつてはいるが、その他の手術は症例数が少ないことや難易度が高いことなどから、一部のエキスパートが行う高度先進的な治療という位置付けにとどまっている。本号の特集ではこれらの advanced laparoscopic surgery のコツとピットフォールが詳しく解説されており、安全な手術の手引き書となっている。すでに現在では確立された医療技術が過去にそうであったように、このような先進的技術のなかから learning curve と歴史の評価を経て、日常臨床となるものが生まれてくるものである。

(島津元秀)

臨床外科 (第63巻第6号)

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
社内案内 (03) 3817-5600
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
振替口座 00170-9-96693 番

2008 年 6 月 20 日発行 (毎月 1 回 20 日発行)

定価 2,625 円 (本体 2,500 円 + 税 5%)
2008 年 年ぎめ予約購読料 38,960 円 (税込)
(送料弊社負担・増刊号を含む 13 冊)

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5708
ファクシミリ (03) 3815-7802
E-mail : ringe@igaku-shoin.co.jp
担当 阿部・田村・中田
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 (株) 医薬広告社 電話 (03) 3814-1971

- ・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2008, Printed in Japan
- ・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- ・ JICIS < (株) 日本著作出版権管理システム委託出版物 >
本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き、禁じられています。本誌を複写される場合は、そのつど事前に(株)日本著作出版権管理システム (03-3817-5670) の許諾を得てください。
- ・ 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- ・ 「臨床外科」ホームページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ringe/> です。